

「地域で創る！子どもたちのスポーツ・文化芸術活動の未来」ワークショップ

宮古市における実証事業

『Kadatte（部活動地域移行推進実働チーム）』

の取り組み



宮古市教育委員会事務局
生涯学習課 スポーツ振興係

副主幹 佐々木 毅

発表内容

- 1 はじめに
- 2 Kadatte実働チーム発足の経緯とスタンス
- 3 チーム宮古で支える部活動の概要
- 4 チーム宮古で支える部活動の取り組み
- 5 実証事業の具体
- 6 おわりに

1 はじめに

教育関係45年

- 教員時代
 - ・教師の果たす役割
- 東日本大震災
 - ・元気な学校

**※その中心には、常に部活動があった。
その部活動が消える？**

2 Kadatte実働チーム発足の経緯とスタンス

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業を受けて・・・

○宮古市の概要・学校

宮古市の概要・学校		
人口	45,785人	(県内7位)
面積	1259.18平方km	(県内1位)
小学校数	13校	
小学校児童数	1,823人	
中学校数	11校	
中学校生徒数	973人	

○学校部活動の実態把握

- 1 学校訪問（統括的な地域学校協働活動推進員とともに）
部活動の課題、困り感 少子化 働き方改革、部員募集停止、廃部、休部
- 2 アンケート結果・分析 ①

<中学生>

- ・学校部活動の所属状況

所属割合（80%） 学校・地域で活動している割合（97%） 無所属（3%）

運動系（73%） 文化系（27%） 学校・地域（15%） 地域のみ（10%）

※ほとんどの生徒が部活動に所属しており、充実した活動ができるような支援が必要

※学校部活動と地域クラブとの連携 多様な体験活動を創出

<小学生4・5・6年>

中学校で部活動に加入希望 65%（スポーツ系53%、文化系12%）

決めていないが加入希望（15%） わからない、加入しない（15%）

※年々学校部活動、特にスポーツ系への加入希望が低下している。

<教員>

- ・ 平日の部活動にやりがいがある 50%
 - ・ 休日の部活動が負担である 80%
(経験のない部活動を指導することが負担等)
 - ・ 休日の部活動に携わりたい 33%
- ※休日の部活動の負担感は強い傾向にある。

<地域移行への意見・要望等①>

(1) 保護者 (小学生・中学生)

- ※「移行」という言葉だけが広がり、現在各競技がどのような状況なのか？
進んでいるのか？いないのか？
市としてどのような見通しがあるのか分かりにくい。説明不足。

<地域移行への意見・要望等②>

(2) 中学校教員

※教員の負担軽減の大きな対策の一つとして、休日の部活動の移行が進められているが、本質的な部分で解決に至るか疑問。
県においては部活動の加入率は高く、部活動を通して行ってきた生徒指導的な側面を軽視してはいけない。
現在の整備状況で地域移行しても本来の目的に至らず、違う課題が湧き上がる可能性がある。
特に岩手県においては、国の動きと合わせて進めていくだけでは、その流れに巻き込まれる生徒や家庭にしわ寄せがあってはならないと強く感じる。

(3) 競技団体・文化芸術団体

※地域移行を単に教員の負担軽減という働き方改革の視点にとらわれることなく、部活の特性を生かした活動が生徒のためになるように学校・地域が協議して進めることが第一である。

<取り組むべき重要課題> (アンケート、意見結果から)

- 1 取り組み内容の説明 情報発信
- 2 移行競技と多様な体験活動競技の選定
- 3 受け皿の確保 (委託先の選定)
- 4 送迎方法、送迎費用

3 R6 各校常設部活動数・部員数（地区中総体）

	合同チーム	団体不参加										
	宮古一	宮古二	河南	宮古西	花輪	津軽石	重茂	崎山	田老一	新里	川井	設置数
	バスケ男22		バスケ男13	バスケ男16		バスケ男10						4
	バスケ女12	バスケ女6	バスケ女9	バスケ女13		バスケ女2			バスケ女5			6
	サッカー3			サッカー18								2
	軟式野球3			軟式野球15	軟式野球7	軟式野球10	軟式野球3		軟式野球14			6
		バレー男22	バレー男18									2
	バレー女13		バレー女19	バレー女25	バレー女16	バレー女11		バレー女14	バレー女4			7
	テニス男20		テニス男15	テニス男25	テニス男10			テニス男9		テニス男12		6
運	テニス女12	テニス女6	テニス女15	テニス女14	テニス女6		テニス女2	テニス女8		テニス女7		8
動	卓球男9			卓球男14		卓球男18		卓球男13	卓球男6	卓球男6	卓球男6	7
部	卓球女3		卓球女5	卓球女9		卓球女11		卓球女9	卓球女8	卓球女5	卓球女3	8
	ソフトボール8			ソフトボール14								2
	柔道男8			柔道男9			柔道男5					3
	柔道女9			柔道女2			柔道女2					3
	剣道男7			剣道男7							剣道男1	3
	剣道女2			剣道女4					剣道女2	剣道女1		4
文	吹奏楽20	吹奏楽12	吹奏楽18						吹奏楽16			4
化	総合文化20	総合文化17	総合文化15		総合文化17		総合文化10					3
部				芸術42		芸術13						2

未加入総数78

R6 各校常設部活動数・部員数（地区新人大会）

	合同チーム		団体不参加									
	宮古一	宮古二	河南	宮古西	花輪	津軽石	重茂	崎山	田老一	新里	川井	設置数
	バスケ男7		バスケ男7	バスケ男13		バスケ男9						4
	バスケ女8	バスケ女4	バスケ女7	バスケ女10					バスケ女2			5
	サッカー1			サッカー7								2
運	軟式野球1			軟式野球10	軟式野球3	軟式野球5			軟式野球6			5
		バレー男11	バレー男11									2
動	バレー女12		バレー女9	バレー女17	バレー女10	バレー女9		バレー女8				6
	テニス男17		テニス男13	テニス男19	テニス男4			テニス男8		テニス男6		6
部	テニス女11	テニス女3	テニス女10	テニス女6	テニス女3		テニス女2	テニス女6		テニス女4		8
	卓球男4			卓球男9		卓球男13		卓球男9	卓球男6	卓球男5	卓球男4	7
	卓球女2		卓球女4	卓球女5		卓球女7		卓球女8	卓球女8	卓球女5	卓球女2	8
	ソフトボール3			ソフトボール5								2
	柔道男6			柔道男9			柔道男5					3
	柔道女7			柔道女2			柔道女1					3
	剣道男5											1
				剣道女4						剣道女1		2
文	吹奏楽20	吹奏楽12	吹奏楽18						吹奏楽16			4
化	総合文化20	総合文化17	総合文化15		総合文化17		総合文化10					3
部				芸術42		芸術13						2

未加入総数78

まとめ①

部活動の取組が、教師の献身的な取組だけで成り立たなくなってきた。

- ・ 実証事業に向けて、国、県のガイドライン、方針を確認
- ・ 何のために、だれのために部活動を地域移行するのか。移行したことによって何が生まれるのか。
- ・ 受け皿と考えられる競技団体の方々は、部活動で育った世代、学校部活動がなくなるイメージがない
- ・ 広大な学区の地域性、何をするにも移動に時間がかかる。地域移行は可能なのか。

※いきなり地域移行ではなく、常に実態把握（部員数）に努め現状を理解する。まずは、学校部活動を地域と連携しながら支え、緩やかに地域移行を進める。受け皿が拡大することで結果として、提言、方針に示してある「持続可能な部活動、教員の負担軽減、休日の部活動の地域移行、学校単位から地域単位」へと緩やかに進む。その検証をする。

まとめ②

※教員の働き方改革は部活の地域移行ではなく、チーム宮古、チーム学校、学校運営協議会、地域学校協働推進本部等と連携しながら部活動を支え、教員の抱えているそれぞれの負担を軽減するのが、改革になるととらえる。

生徒・教員・指導者・管理職・競技団体、それぞれの立場を理解し合い、真に連携し合うために、実践しながら連携を深める。わかり合う。

できないことを挙げるより、置かれた環境でできることを構築する。

★部活動地域移行推進実働チーム 通称「**まずKadatte**」を組織する

★基本スタンス「**まずKadatte**」連携し合うこと・支え合うこと

※大切なことは、「地域の宝である子どもたち」を地域で育てるための支援を構築する。〈まずやってみる。みんな「**まずKadatte**」〉を基本スタンスとして実証事業をスタートする。「**まずKadatte**」は「移行」よりは「支える」（連携）の活動を柱として、実証事業を進める。

理念：未来ある子どもたちのために手を取り合う

3 チーム宮古で支える部活動の概要

(1) 宮古市の中学校運動部活動地域移行プロセス（案）

<別紙資料 1 >

(2) 『部活動の地域移行の基本方針』

～支え・育てながら移行へ～

（支えるために連携し合うこと 支えるは連携すること）

理念：未来ある子どもたちのために手を取り合う

① 「チーム学校で部活動を支える」

平日・休日の支援の具体を構築する

② 「チーム宮古で人間性豊かな中学生を育てる」

休日の多様な体験活動を企画し、実施する

(3) <部活動地域移行推進体制>

推進実働チーム事務局：教育委員会事務局生涯学習課内に置く

活動内容：学校部活動の支援、多様な体験活動の実施、協力団体・連携団体への依頼調整

メンバー（提言を参考）：市スポーツ・文化担当部署（生涯学習課スポーツ振興係、文化課）

学校の設置・管理運営担当部署（学校教育課）、

地域スポーツ・芸術文化団体（体育協会、芸術文化協会）、

学校等関係者（中体連・中文連事務局等）

<部活動地域移行推進実働チーム>

通称

まず

Kadatte

<推進員> (6人)

○役割分担

- | | | |
|---------------|--------------|-------------------|
| ・ 総括 | 生涯学習課スポーツ振興係 | (副主幹) |
| ・ 予算・申請等 | 生涯学習課スポーツ振興係 | (副主幹兼係長) |
| ・ 学校関係調整 | 学校教育課教育研究所 | (所長・相談員) |
| ・ 部活動情報把握・分析等 | 学校教育課教育研究所 | (ICT支援員) |
| ・ 芸術・文化団体調整 | 文化課文化係 | (係長) |
| ・ 地域学校協働推進 | 生涯学習課社会教育係 | (統括的な地域学校協働活動推進員) |

<協力団体等>

- ・ 学校関係
 - 体育関係 中体連事務局 (事務局長)
 - 文化関係 中文連事務局 (事務局長)
- ・ 競技団体等
 - 体育関係 体育協会 (総務係長)
 - 文化関係 芸術文化協会 (会長)

4 チーム宮古で支える部活動の取り組み

<基本方針の具体>

(1) 学校部活動の地域連携 ～チーム学校で部活動を支える～

チーム学校（コミュニティースクール）学校運営協議会の機能を生かす [<別紙資料2>](#)

① 学校部活動（常設部）の支援

- ・ 少子化、部活動数の激減、学校単独でチームが編成できない。
- ・ 学校単独で大会に参加できる学校は限られており、合同チームで参加する学校が増えている。
- ・ 各校で多様な部活動が設置できない中、生徒の希望をかなえられる状況にない。

以上の現状から、**部活動の支援は急務**

※地域移行の前に、いかに地域と連携して支援するか

<支援の在り方>

学校間連携（合同部活動） 各競技協会の支援 部活動支援員の配置、外部指導員の支援

② 学校部活動（特設部）の支援

特設陸上・駅伝部の大会参加生徒への支援（合同練習会）

県大会参加生徒（個人競技：剣道、柔道等、団体競技：☆ラグビー等）への支援

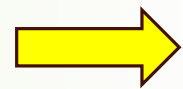
<支援の在り方>

各競技協会の支援

(2) 地域連携から地域クラブへ

～チーム宮古で人間性豊かな中学生を育てる～

☆学校部活動を支えながら、多様な活動（運動・文化）にふれる機会を創出



緩やかな地域移行へ

チーム宮古で支える部活動の取り組み **図解** **<別紙資料3>**

5 実証事業の具体

実証事業：まずは休日の運動部活動の段階的な地域移行を目指して

(1) 実施の流れ 受け皿：各競技協会

実証事業（地域クラブ活動：Kadatte教室）実施の流れ

- ①教育委員会事務局→各競技協会へ趣旨説明、協力依頼（合意形成）
- ②教育委員会（事務局「まずKadatte」）→各競技協会へ地域クラブ活動実施依頼
- ③各競技協会→各中学校へ「まずKadatte教室」の案内
- ④各中学校→各競技協会へ参加者希望者の報告
- ⑤各競技協会、休日に「まずKadatte」教室の実施
- ⑥各競技協会→事務局「まずKadatte」へ実施報告書（参加者名簿、指導者名簿）提出

(2) Kadatte教室

ア 学校部活動の支援

主催協会名	Kadatte教室
陸上競技協会	「走って！跳んで！投げて！ Kadatte ！陸上競技チャレンジ教室」
柔道協会	「みんな Kadareru 柔道教室」
剣道協会	「まず Kadatte 剣道教室」
野球協会	「みんな Kadatte ！野球教室」

イ 多様な体験活動の実施

主催協会名	Kadatte教室
シーカヤック協会	「まず Kadatte 宮古港ボート天国」
ラグビーフットボール協会	ラグビーフットボール協会 「みんな Kadatte ！ラグビー教室」 ※取組紹介

ウ 今後の実施予定

(予定含み常設部9競技中7競技依頼済み)

i <依頼済み>

主催協会名	内容
卓球協会	地域クラブと学校部活動合同練習会
サッカー協会	地域クラブと学校部活動合同練習会
バスケットボール協会	合同チーム間の連携強化
バレーボール協会	地域の指導者育成、学校部活動合同練習
総合型地域スポーツクラブ主催	陸上教室
Kadatteスポーツクラブ主催	全競技合同トレーニング

Kadatteスポーツクラブはチーム宮古（実働チーム）が立ち上げた地域スポーツクラブ

<別紙資料4>

ii <検討中・文化活動>

団体名	予定内容
芸術文化団体（吹奏楽連携等）	「まずKadatte吹奏楽」（アンサンブルコンテスト参加の支援 大編成の吹奏楽を体験してみよう！）
生涯学習課文化係	「だれでもKadareru料理教室」

(3) 取組紹介 ラグビーフットボール（地域クラブが県中体連主催の大会に参加する）

県中体連主催のラグビー競技は、クラブチームの大会参加は認めておらず、出場するには、学校部活動（合同チーム可）でなければならない。指導者（ラガーマン）の長年の願いは、「地域クラブで県大会に出場したい。」である。そこで、「まずKadatte」と「宮古市ラグビーフットボール協会」が連携して、選手が所属する学校に特設ラグビー部の設置をお願いした。各校では、協会の熱意と生徒の思いを汲み、地区7校が特設部を設置してくれた。学校部活動の合同チームとして、念願の大会出場となった。

※学校部活動の地域移行を進めていく中では、逆行するような取組であるが、生徒の思い、指導者たちの願いを叶えるために学校と地域が連携した取組であった。

☆だれのために、何のために 柔軟に対応する「まずKadatte」チーム

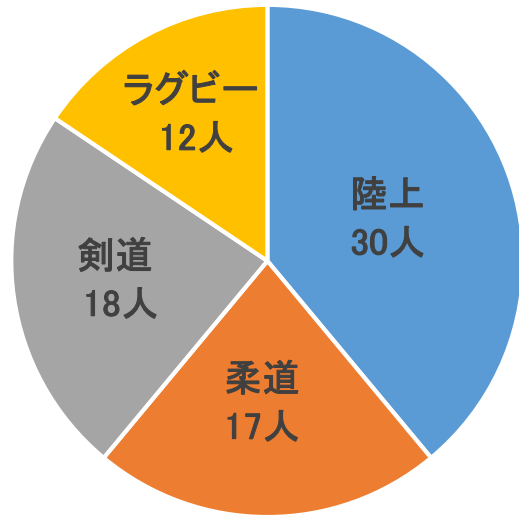
<ラグビーVTR>



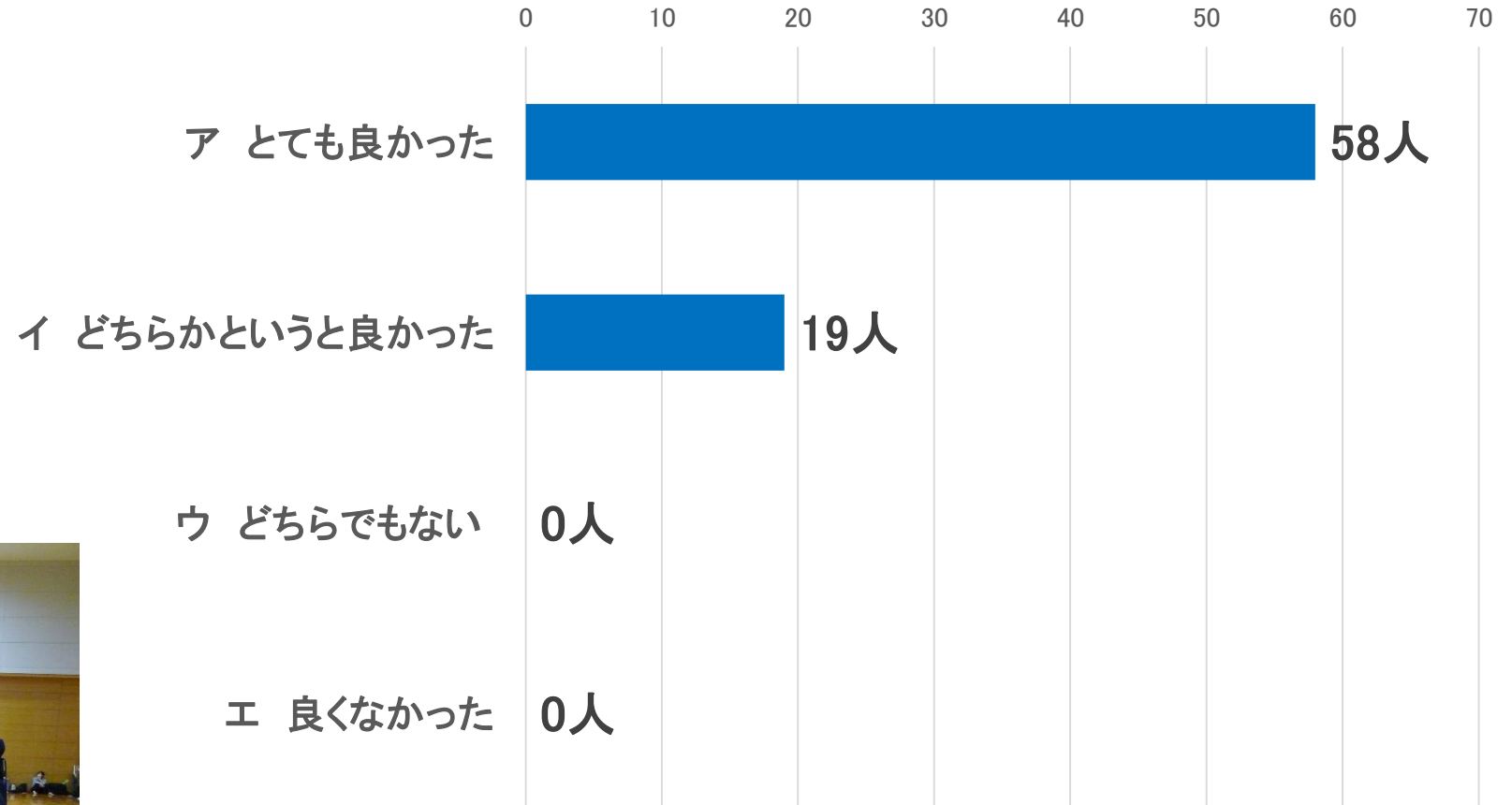
実証事業アンケート

休日の地域クラブ(部活動)参加に関するアンケート 結果

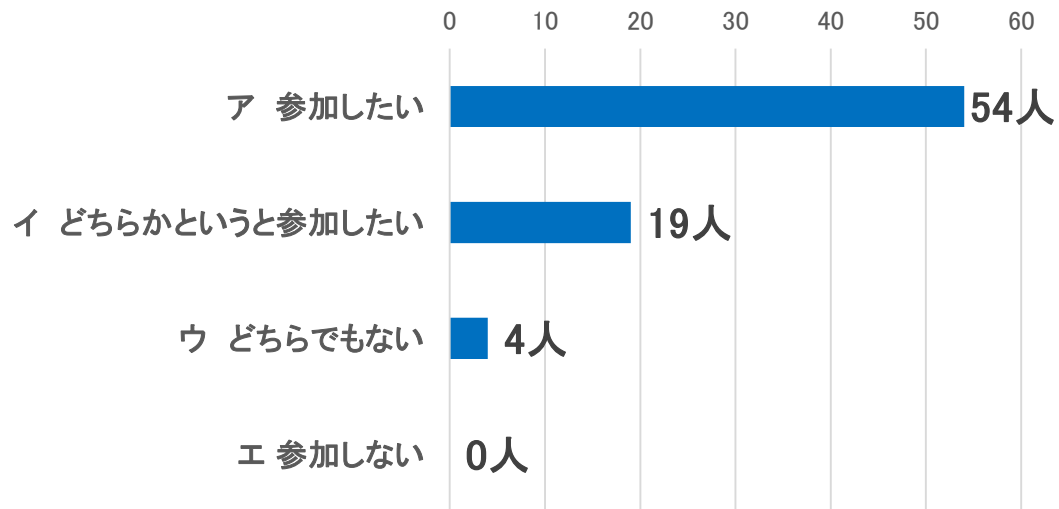
参加部活動人数



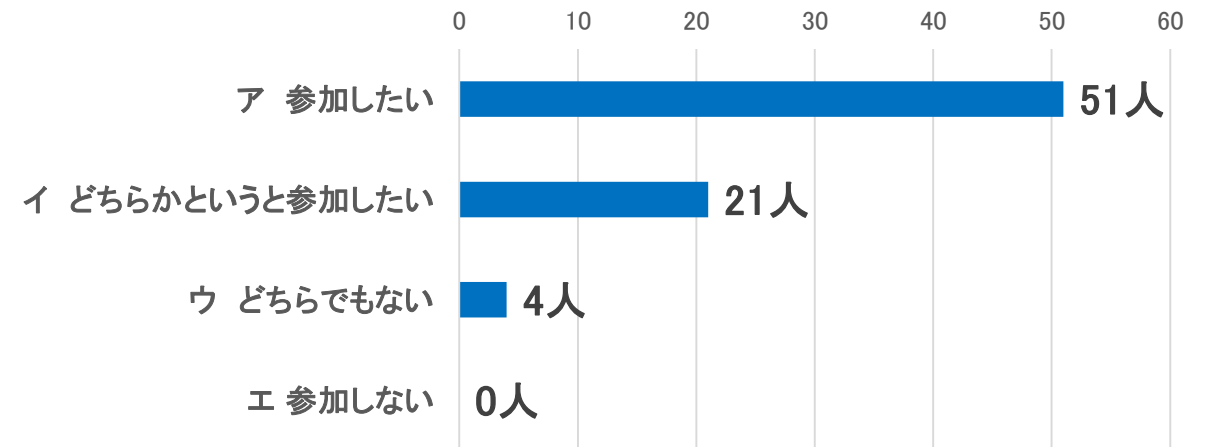
1 休日の部活動に参加してどうでしたか。



2 次回も参加したいですか。



3 休日の部活動が地域クラブに移行した場合は参加しますか。



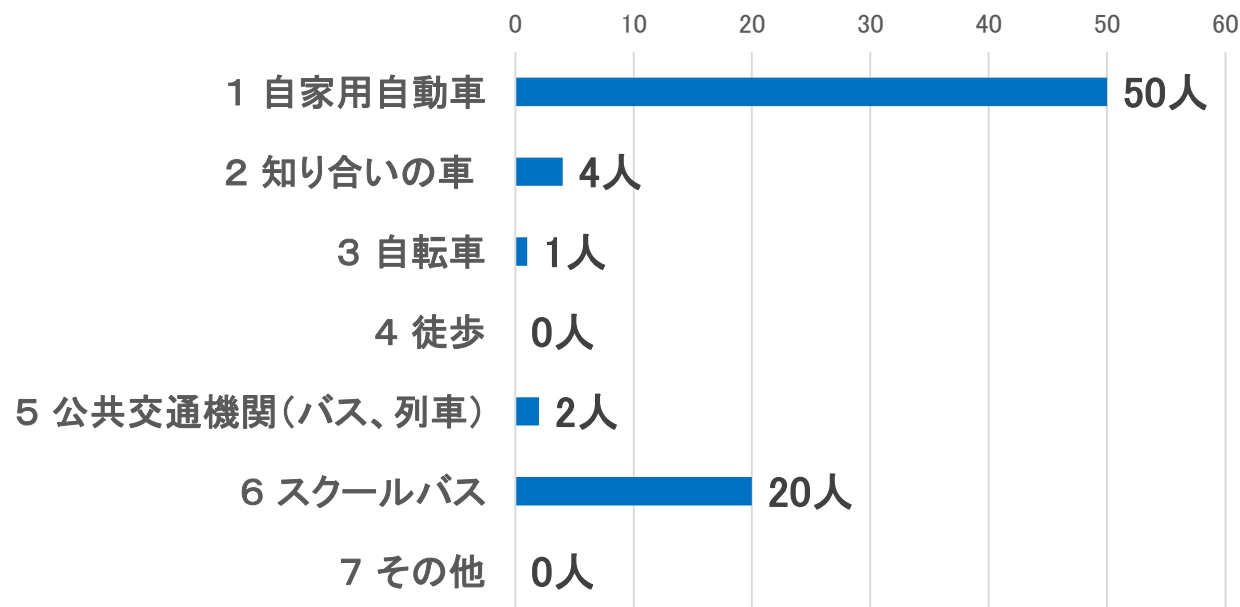
4 休日に部活動以外に体験してみたいスポーツがある場合は、記入してください。 <複数記入可>

バドミントン・バレーボール・サッカー・バスケットボール

陸上・水泳・シーカヤック・ボクシング・ドッチボール・レスリング・テニス



5 会場までの移動手段を教えてください。



6 休日の地域クラブについて、意見や要望はありますか。ある場合は自由に書いてください。

<意見・要望>

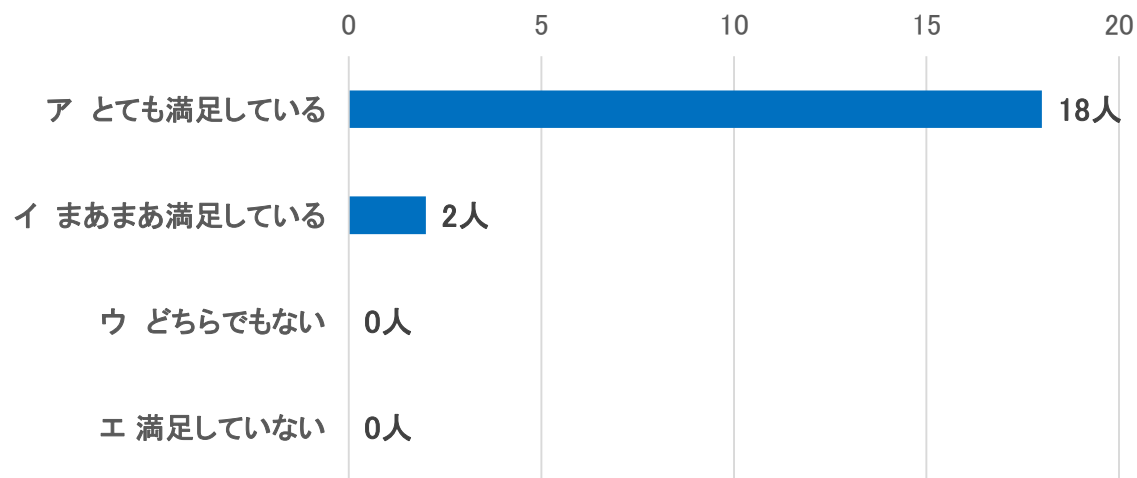
- ・学校とは違う練習があって楽しかった。
- ・いつもの部活動では得られない学びがあってとても良かった。
- ・もう少し先生方と稽古する時間がほしかった。
- ・いろいろな人と交流ができて良かった。
- ・いろいろな先生に指導してもらえて良かった。



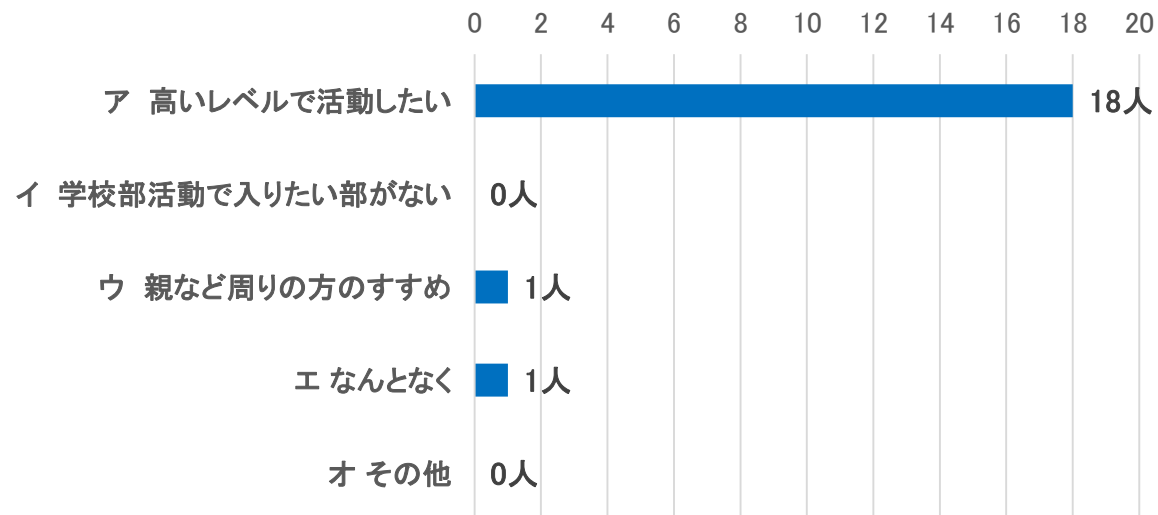
地域クラブチーム参加に関するアンケート①

クラブチーム名 MIYAKO.SC (サッカー)

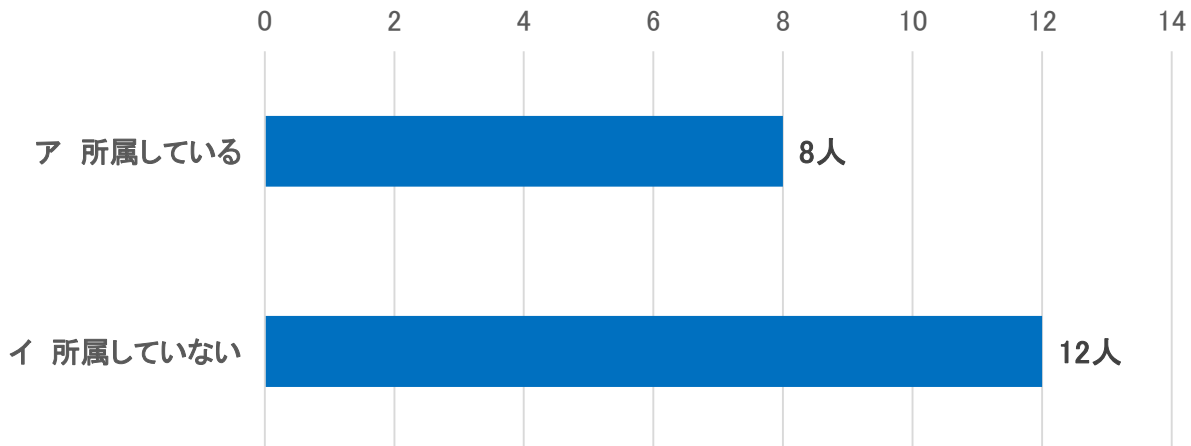
1 地域クラブに参加してはどうですか。



2 地域クラブに加入している理由は何ですか。



3 学校部活動に所属していますか。



4 3で「ア 所属している」と答えた方は何部に所属しているか記入ください。

特設陸上・駅伝 サッカー 卓球 総合文化

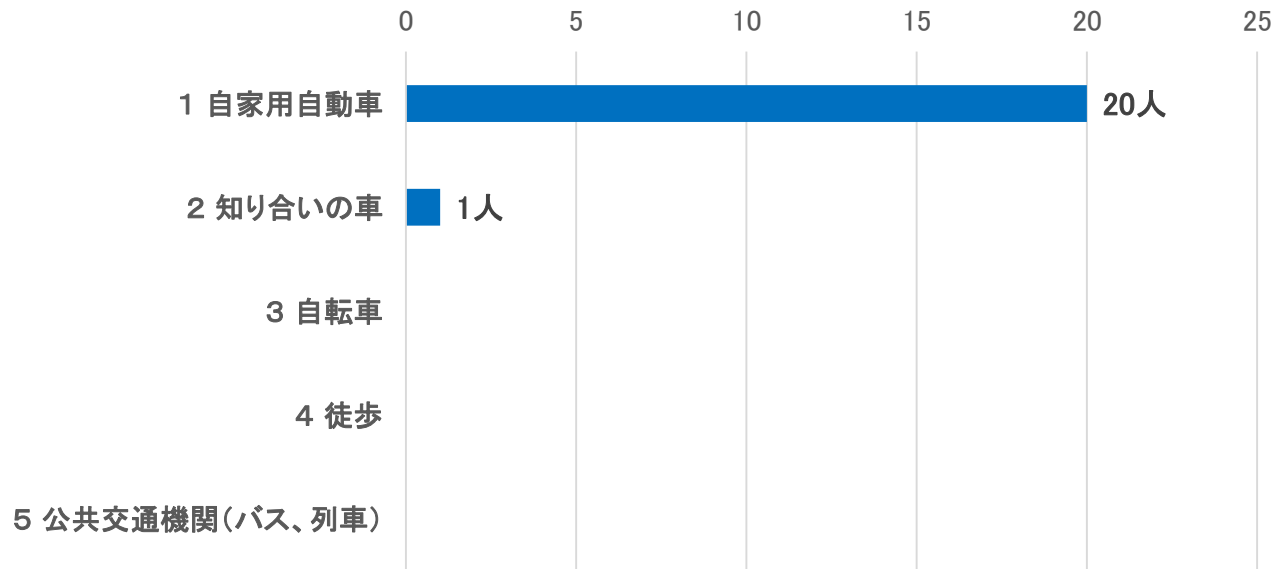
地域クラブチーム参加に関するアンケート②

5 地域クラブ以外に体験してみたいスポーツがある場合は、記入してください。

<複数記入可>

スポーツ名[回答なし]

6 会場までの移動手段を教えてください。



サッカーVTR

7 地域クラブについて、意見や要望はありますか。ある場合は自由に書いてください。

<意見・要望>

- ・チームに所属している地区外の人を中総体に出れるようにしてほしい。
- ・このクラブをずっと続けてほしい。

<地域移行に関わるインタビュー>

氏名	役職名など
佐藤 和信 先生	Kadatteメンバー 統括的な地域学校協働活動推進員
菊地 裕 先生	Kadatteメンバー 教育研究所所長 宮古市剣道協会理事長
一ノ倉 眞吾 先生	宮古西中学校校長 市内で生徒数が一番多く、実証事業に多数の生徒が参加
藤島 洋介 先生	川井小中学校校長 小規模校で、中心市街地から離れた立地 限られた部活動数

6 おわりに①

Kadatte実働チーム発足約半年の取り組みであり、事業の検証までには至っていないが、参加の生徒はととても意欲的である。受け皿の競技協会は、ほとんどが審判中心の協会であったが、今回の取組を機に指導もできる協会になるべく実働チームと連携しながら指導者の育成を進めている。

この取組が、未来ある子どもたちの人間づくりのためになることを願い、学校、地域、行政がそれぞれの立場を尊重しながら、手を取り合って真に連携すること、その一歩になれば幸いである。

6 おわりに②

日々変化する子どもを取り巻く環境、どんな時代であっても地域が連携して子どもを守り育てられるような普遍的な流れを「まず**Kadatte**」実働チームが中心になって創り上げたい。その輪が広がり、学校部活動の地域連携と地域クラブ活動への移行が緩やかに進んで行くことを願いながら、ゆっくり、じっくり実証事業を進めていきたい。

ご清聴ありがとうございました

宮古市の中学校運動部活動地域移行プロセス（案）

<別紙資料1>

地域移行の実証事業期間

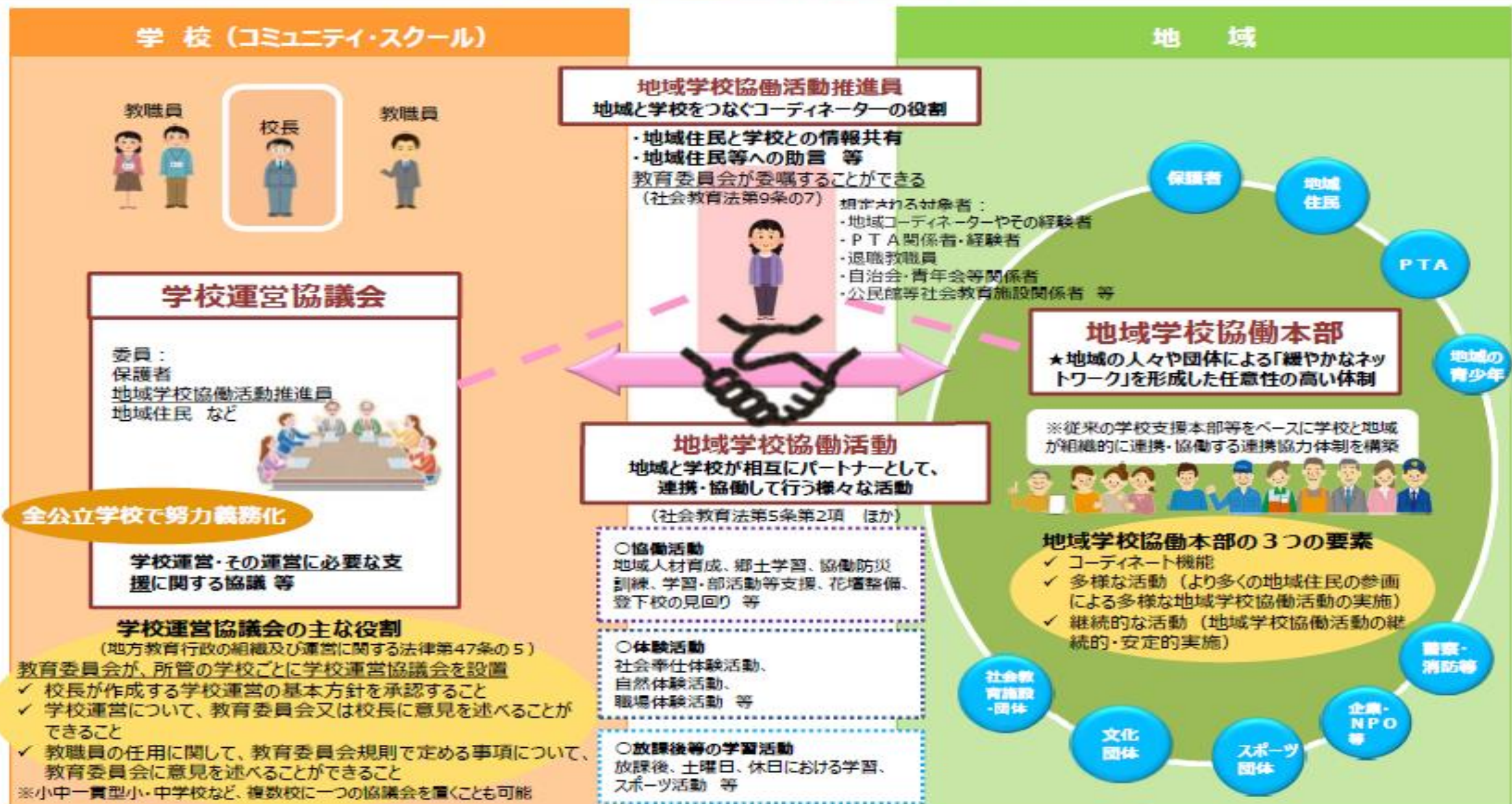
地域クラブ活動の充実

地域移行に向けた準備		実証事業(地域クラブ)スタート	実証事業終了 地域移行へ	
		<ul style="list-style-type: none"> * 部活動地域移行推進実働チーム (チーム宮古「まずKadatte」) 発足 * 部活動地域移行方針 (学校訪問、各競技団体等へ説明) * 協力競技団体実証事業(地域クラブ)実施 (休日の学校部活動支援・多様な活動) 	<ul style="list-style-type: none"> * 推進実働チームから運営協議会へ (方針の見直し、体制の再構築) * 学校部活動と地域クラブとの連携強化 (実態把握、部活動数の推移、合同チーム) * 部活動地域移行実証事業のまとめ * 部活動地域移行検討委員会(事業報告) 	<ul style="list-style-type: none"> * 地域クラブ活動運営協議会(仮称)の設置 (業務委託先等検討、管理運営について) (持続可能な地域クラブ活動の検討) * 連絡協議会設置 (教育委員会・学校・競技団体等・地域クラブ) (連携の在り方、情報交換等)
* アンケート調査 (小・中学生、保護者、教員、競技団体等)				
* 部活動地域移行検討委員会開催 (計画、アンケート結果報告)				
* 実証事業開始 (ラグビー、陸上、軟式野球、女子バスケ)				
		令和6年度	令和7年度	令和8年度～令和10年
令和5年度	休日の部活動の緩やかな地域移行期間			

目指す姿：○スポーツに親しむ機会の確保 ○働き方改革の推進 ○持続可能な部活動 ○多様なスポーツ環境の整備 ○多様な体験活動の確保

<組織づくりの流れ>

1 部活動地域移行検討委員会	2 部活動地域移行推進実働チーム	3 部活動地域移行推進実働チーム	4 地域クラブ活動運営協議会(仮称)
実施の方向性・アンケート結果	移行の方針 学校部活動の実態把握	実証事業のまとめ	地域クラブ活動の拡充と連携強化
実証事業開始	学校のニーズ、協力競技団体への依頼	実証事業から持続可能な活動へ	持続可能な地域クラブ活動の支援
	実証事業の本格実施	事務局・委託先等検討	総合型地域スポーツクラブとの連携 Kadatteスポーツクラブの活動実施



<別紙資料3>

チーム宮古で支える部活動「宮古版」



通称 「**ます**

Kadatte」 事務局主催の地域クラブ活動

地域クラブ名：**Kadatte スポーツクラブ**

○目的

ます
チーム宮古（Kadatte）として、各地域クラブ（実証事業参加の競技団体）の指導者・生徒が一堂に集うことで、一体感が増し、更なる意欲的な活動につなげる。結果、人間力・競技力の向上が図られる。

○組織

- ・会長：教育長
- ・副会長：教育部長
- ・事務局長：生涯学習課副主幹
- ・事務局員：総合的地域学校協働活動推進員 教育研究所所長 体育協会事務局長・総務係長

○参加者

- ・指導者：実証事業参加の競技団体指導者
- ・生徒：地域クラブ参加生徒及び市内中学生

○実証事業参加の競技団体（R6.11現在）10団体

宮古市陸上競技協会・宮古剣道協会・宮古柔道協会・宮古市卓球協会・宮古市バレーボール協会
宮古市バスケットボール協会・宮古ラグビーフットボール協会・宮古市サッカー協会
宮古市野球協会・宮古シーカヤック協会

○場所

シーアリーナ・東北ヒロセ陸上競技場

○開催期間

11月～3月

○練習内容

スローガン「冬場にしっかり鍛えて、春の本格的な競技シーズンに向かおう。」

- ・基礎トレーニング ・サーキットトレーニング ・体幹トレーニング
- ・レクのトレーニング